

麻生区役所太陽光発電所から自然エネルギーを普及させるために

おひさまだより

発行 麻生区クールアース推進委員会 2022年3月 vol.45

麻生区地域課題対応事業

麻生区役所太陽光発電設備設置 19 周年記念イベント

2022年2月5日(土)開催



今、私たちは気候危機にどう立ち向かうのか

～人類の未来がかかる 2030 年～

2021年に「環境分野のノーベル賞」と言われるゴールドマン環境賞を受賞した環境活動家の平田仁子氏に講演をしていただきました。今回は大会として初の試みであった会場とオンラインのハイブリッドでの講演会を行い、参加者は会場32名、オンライン25名、委員10名でした。



—講演の概要—

【気候変動の現状をどう受け止めていますか?】から講演が始まった。ここでは、国連開発計画(UNDP)がCOP26の前に公開した動画を視聴した。国連本部に恐竜があらわれ、世界のリーダーに対して気候危機に対処するために「言い訳はやめて変化を起こすために立ち上がれ」、「恐竜の絶滅は隕石が原因だが、人類の言い訳は?」と気候対策の強化を訴えた。国連は現状を「温暖化対策が進まず、人類が絶滅する選択をしている」に近い状況と訴えている。

【気候変動とはあなたにとってどのような問題ですか?】では、多くの人が中途半端な理解で現状を容認し危機感を抱いていない。このような人の気持ちを変化させることが必要だ。

【今はチャンスか?】では+-要因はあるが、一般の人の関心は上がっておらず地に足のついた活動(時間が無い中で必要な変化を起こす)にしないといけない。取り組んできたことを続けるだけではだめで、この講演会に来た人が地域の核となって行動して欲しい。

【パート1 最新情報と緊急性の確認】

【世界のCO2排出量の増加】解決に向かうどころか最悪の状況になっている。各国の首脳や企業のCEOが集まるダボス会議では「コロナ後、世界にとって最大のリスクは気候変動」との認識が示された。

【IPCCの重要な知見】今後様々な極端現象(10年

に1回とか50年に1回起こる)が気温上昇に関連して拡大し、食料、健康、経済への影響が大きい。現在1.1℃の上昇になっているが、2℃は取り返しのつかないティッピングポイントであり、何としても1.5℃に抑える必要がある。

【COP26の成果(決定文書)】

①気温上昇を1.5℃に抑える ②2022年(COP27)までに各国の2030年目標を見直し強化する ③クリーンな電力の普及を加速し、石炭火力削減・化石燃料補助金廃止へ ④途上国の適応支援の資金は2025年に倍増。この目標に沿った行動が日本含め各国に求められる。

【1.5℃目標と現実とのギャップ】各国が現在行おうとしている取組みを積み上げると、2100年には2.5~2.9℃になる。現在の温室効果ガス総排出量(CO2換算)が約500億t/年であるが、1.5℃に抑えるためには2030年で190~230億tのギャップがある。

【削減の深堀りはまず石炭から】世界全体で2030年までに8割減が必要。先進国は2030年までに石炭火力ゼロが求められる。

【パート2 日本の動向と課題】

【石炭火力削減に対する日本の評価】ドイツの環境団体が気候変動対策評価(CCPI)を出しており65ヶ国中、日本は45位となっている。また、先進国(43カ国)の中では最下位であり、石炭火力の全廃を検討していないことが要因だ。

【いかに実現し、強化するか?】CO2排出量は2013年から毎年下がっている。政府の目標とは別に企業や個人家庭での省エネが進んでいる成果と考える。2030年-46~50%目標達成の希望もあるが難しい対応が必要となる。

【167基の石炭火力発電所が稼働中】高効率ではあるが8基の建設計画があり本年2月1日に神戸発電



平田仁子氏



所が稼働開始した。エネルギー基本計画では2030年までに石炭火力の比率を2019年の32%から約19%に削減し再エネ比率を増やすことになっている。

【「非効率石炭フェードアウト」鈍る古い石炭火力発電の廃止】対象は非効率な発電所で、具体的なスケジュールが見えない。アンモニア・水素混焼は化石由来でも問わない、バイオマス混焼もOKとなっている。

【革新的技術とカーボンリサイクル】資源エネルギー庁からはカーボンリサイクル実現に向けたコンセプトも出されているが、実現には技術革新と貯留・利用など解決すべき課題が多い。

【アンモニア・水素混焼が石炭火力の延命策に】火力に水素やアンモニアを混焼する事業が始動。廃止対象の発電所の寿命が延長される。ただし、アンモニアを2割混ぜてもCO₂は4%削減にしかならず対策効果は無いに等しい。

アンモニア・水素混焼・CCUS (CO₂を集めて埋めて役立つ)利用の名目で化石燃料開発に多額の補助金が投じられている。

【岸田首相演説と化石賞】COP26の首脳会合で演説したが1.5℃の目標への言及が無く、具体的な対策や行動の強化につながる論点がなかった。⇒不名誉な化石賞を受賞した。

【パート3 これからの選択肢—解決は私たちの手に】

【2050年ネットゼロへの道すじ】気候ネットワーク提言レポート(2021.3)から、バックキャストの発想に立ち、自分たちが参加・対話・包摂を育み、選びたい未来を実現することが大事だ。

【国の動向】昨年6月の地球温暖化対策推進法の改正では、“市町村は「地域脱炭素化促進事業」に係る促進区域や環境配慮、地域貢献に関する方針等を定めるよう努めることとする。”また、地域脱炭素ロードマップでは“脱炭素先行地域100箇所ガイドブック”を出すなど地域から供給側を変えていくことを示唆している。

地域での実効性のある条例化が重要になってくる。住宅・建築物の省エネについて国の施策が遅れている

が条例化が進んでいる地域もある。

【地域・各主体でエネルギーの作り方・使い方を大きく変える】省エネ、工夫の節電(我慢はしなくて良い、我慢は続かない)、使う電気はクリーンな電源で。

【施策の具体化—普及啓発を超えた動き】教育:教えるのは難しい。ポジティブに希望をもって今日出来ることを今日やって考えることが大事だ。

金融:預けたお金の流れを脱炭素に向いているか良く見ておこう。

【質疑応答】

Q1. 再エネ地元企業の力が落ちており、太陽光関連企業の多くが倒産している。対策は?

⇒ここに資金を注ぎ込み、人を育成することが大事。

Q2. 太陽光パネルを団地の屋根に付けてペイするか?

⇒パネル価格が安くなってきている。また、初期費用は共同購入で削減や屋根オーナー制度の利用等で対応できるようになっている。

Q3. 太陽光パネルの不法投棄が問題になっている?

⇒国としても議論しておりリサイクルや故障にも対応できるようになると考えている。

Q4. 産業がCO₂を7割排出している川崎市の市民としてどうすればよい?

⇒産業との対話が必要で市の問題として本社に話をするのが重要だ。

【アンケートでの感想】

大変参考になったが大半を占めました。

- ・ 気候変動が危機的な状況にあることに常日頃不安を感じていますが、本日のお話を聞いて、絶望してはいられない! まだまだ一市民としてやれることはあると勇気づけられました。今、自分にできることを地道に取り組んで行きたいと思います。
 - ・ 脱炭素の地域作りの広がりに向けて、地域性を活かした取り組みに興味があった。農地を活かした太陽光発電を、行政、企業、市民、農業者と取り組みの麻生電力は実現できてよいのかな?
- 等のご感想を頂きました。

(三好一義記)

トピックス

「石炭火力発電所をつくらないで」

国連事務総長が各国に求める

今、人類はかつてない危機に直面している。2030年までにCO₂排出量を45%(2010年比で)削減し2050年までに実質排出量をゼロにしなければならない。

この危機に立ち向かうために2021年11月にイギリスで国連の「気候変動の締約国会議(COP26)」が開かれ「産業革命前と比べ気温上昇を1.5度(すでに1.1度上昇)に制限する」決意を確認。また最終文書に「石炭火力発電所の段階的削減」が入った。しかし各国の削減目標を合計しても2030年の排出量は2010年比で13.7%増と推定され1.5度どころか2.4度上昇してしまう。このため各国は削減目標を2022年末のCOP27までに再検討し強化する。また野心的目標に関する閣僚級会議をCOP27以降毎年開催することを決定。これを受けドイツは「削減目標を1990年比で65%削減」

「再エネの割合はすでに46%に達しているが80%に」「2030年までに石炭火力発電所を廃止する」ことを決め一歩踏み出した。我が国の削減目標は2010年比で42%であり基準値の45%にも達していない。さらに石炭火力発電所を9基も新設するなど逆行。COP27にむけて再検討すべきであろう。

グテーレス事務総長は1月21日の国連総会で「気温上昇を1.5度未満にする目標を生かす戦いの勝敗は今後10年で決まる」「新たな石炭火力発電所を作らないこと」「石油とガスの開発を拡大しないこと」を再度各国に求めた。

(2022-1-25 伊藤清美記)





麻生区クールアース推進委員会 メンバー紹介③



地球温暖化問題の解決に向けて、少しでもできることから始めるために、平成14年度に麻生区区制20周年記念事業として、区役所屋上に太陽光発電設備が設置されました。これを契機に発足した麻生区クールアース推進委員会は、自然エネルギー、地球温暖化防止の普及啓発活動を行っています。令和4年度、区制40周年とともに、当委員会も20周年を迎えます。

●三好一義



地球温暖化に興味があり、当委員会の『地球温暖化防止や自然エネルギーの活用促進、省エネルギーを目的として麻生区民と行政が協働し普及啓発活動を行っている』ことに賛同して2017年7月に参加しました。この2年間はコロナ禍で十分な活動が出来ず残念でしたがオンラインでの講演会開催や子ども向けに夏休み環境教室を行うなどの啓発活動を行いました。

さて、2021年11月のCOP26で岸田首相が『2050年カーボンニュートラルを長期目標とし、2030年度に、温室効果ガスを、2013年度比で46パーセント削減する。』と発言しました。しかし、資源が乏しい日本は多様なエネルギーをバランス良く活用する必要があり、今後も石炭を使い続けるとの方針を出しており世界から日本に対する圧力が強まっています。年明け早々に『欧州委員会は1月1日、持続可能な経済活動を分類する制度である「EUタクソノミー」に合致する企業活動を示す補完的な委任規則について、原子力や天然ガスを含める方向で検討を開始したと発表した。』とのニュースがでました。EU内では原子力に反対している国と原子力に頼っている国などエネルギー事情が大きく異なっており賛否が分かれているとのことです。

これは経済成長を止めずにカーボンニュートラルを実現することの難しさではないでしょうか。また、世界人口が2019年の77億人から2030年85億人、2050年97億人になると予想されておりさらにエネルギー消費は拡大します。我々個人が利便さや豊かさを追求するのを止め、少し「不便」や「ガマン」を許容しエネルギー消費を減らすことが大事と考えます。

●井上正樹



数年前、里ボラの会で一緒に活動した天野さんに2020年10月の「気候変動と海洋プラスチック問題」講演会に誘われたのをきっかけに「脱プラスチックへの挑戦」堅達京子著を購入し、刺激を受けたのが入会の動機です。

静岡県浜松市出身、78歳、大手建設会社時代にはアフリカナイジェリアの海外勤務経験。麻生区健康の森(多摩美の森)三年前まで会長を。香林寺五重の塔周りで「生命の体操」毎朝6:30より30分健康維持に頑張っています。

【入会一年の感想】

7月10日高村ゆかり氏講師「気候危機と新型コロナウイルス」ではリモートによる初めての経験。

8月7日には「風力発電機を作ろう」でリモートによるイベントのお手伝い。

12月21日「川崎市地球温暖化対策推進基本計画改定案&一般廃棄物処理基本計画第3期行動計画案説明会&意見交換会」では受付を担当。

【第10回かわさき生ごみリサイクル交流会に参加して】

上映会「いただきます ここは、発酵の楽園」

- ・みいず保育園では循環型保育を掲げ、隣接する自然農の田畑で「畑保育」を実施。園児自身が田植え、稲刈り、脱穀したお米を感謝して食する食農活動を実施。

- ・NHKプロフェッショナルにも出演した「奇跡のりんご」。無農薬・無肥料による「木村式自然栽培」。

- ・微生物の活動にフォーカスした菌ちゃん先生(吉田俊道さん)は全国で「生ごみリサイクル元気野菜作り」のワークショップ・講演を続けている。

健康なお腹と畑は微生物でつながっていました。

家庭から出る生ごみをごみとして捉えるのではなく発酵して貴重な菌が詰まった資源と捉える運動を来年度は私の町内会を通して活動していきたいと思います。

●松下彰子



麻生区在住11年、小学5年生と1年生の男子の子育てに奮闘する毎日です。川崎市名産品のリサイクルせっけん「きなりっこ」との出会いから、環境にやさしい暮らしを意識するようになりました。主婦の私たちにもできる事をやろう、と仲間と一緒に気候危機について気軽に話せるオンライン「おしゃべり会」を開催しています。

気候危機は子どもたちの未来に関わる問題です。石炭火力や原発から卒業できるかは、私たちの選択にかかっています。簡単にできて、気候危機に最も効果的な対策は、再生可能エネルギーをすすめる電力会社に電気を切り替えることです！電気の切り替えにより1世帯あたり、年間約1tのCO2削減につながる電気もあります。ぜひご検討下さい。

麻生区クールアース推進委員会では
委員を募集しています。

【毎月1回 委員会開催】

委員会の詳細は麻生区役所
ホームページをご覧ください。



環境局との意見交換会 2021年12月21日(火)

川崎市環境局の担当者を招き、12月にパブリックコメントを募集中の、川崎市地球温暖化対策推進基本計画改定案と川崎市一般廃棄物処理基本計画～第3期行動計画案～の説明を求め、意見交換を行いました。

気候変動による気象被害が多発するようになり、地球温暖化は危機的状況で、世界中で取り組む課題となっています。川崎市は2020年2月に2050年のCO₂排出実質ゼロを表明、同年11月には脱炭素戦略「かわさきカーボンゼロチャレンジ2050」を策定しました。2018年に改定された現行の地球温暖化対策推進基本計画をさらに強化するため、改定部会が設けられ、その答申を受けて2021年11月に改定案が示されました。

重点事業として5大プロジェクトが提案されており、①再エネ普及促進、②産業系の脱炭素化、③市民・事業者の行動変容、④交通系の脱炭素化、⑤市役所が率先して公共施設の脱炭素化に取り組むとしています。

一般廃棄物処理基本計画第3期行動計画案では一人当たりのごみ排出量削減を強化し、ごみ焼却量の削減



を継続、新たにプラ容器包装の分別率向上を目標とするとしています。

3月末にはそれぞれ2025年度までの実施計画・行動計画が策定されます。市民も関心を持ち、行動変容とはどのようなことなのか、多くの人たちとともに考え、行動していきたいと思います。(林恵美記)

麻生区クールアース推進委員会 2021年度の活動実績

4月28日	かわさきカーボンゼロチャレンジ2050&川崎市プラスチック資源循環への対応方針 策定報告&意見交換会 呼びかけ人:麻生区クールアース推進委員会、環境を考え行動する会、川崎フューチャー・ネットワーク
7月10日	麻生区役所太陽光発電設備設置18周年記念イベント(2020年度延期分) 「気候危機と新型コロナウイルス」 講師:高村ゆかり氏(東京大学教授)
8月7日	2021夏休み環境イベント「ペットボトルで風力発電機を作ろう！」
12月21日	川崎市地球温暖化対策基本計画改定案&一般廃棄物処理基本計画第3期行動計画案 説明会&意見交換会
2月5日	麻生区役所太陽光発電設備設置19周年記念イベント 「今、私たちは気候危機にどう立ち向かうのか～人類の未来がかかる2030年～」 講師:平田仁子氏(気候ネットワーク理事)
3月21日	2022里山フォーラムin麻生に参加:委員会紹介ポスター展示など (3月11日～3月20日は麻生市民館ウォールギャラリーで展示)

編集後記

麻生区が誕生して来年度には40年になる。お祝い行事も色々予定されているようだ。思い起こせば、当委員会の発足は区制20周年を記念して屋上に設置された太陽光発電設備を起点としている。麻生区は他区に先じて地球温暖化対策に取り組み、委員会はこの施設を拠点に普及啓発を担ってきた。小学校などへの授業、夏休み環境イベント、バス見学会、気候変動に関する講演会、区民祭への参加などの事業を続け、それらを通じて市民に気候変動への理解、エネルギーの効率的な使用や、再生可能エネルギーの利用を勧めてきた。

昨年ノーベル物理学賞を日本の真鍋淑郎博士が受

賞したことは記憶に新しい。真鍋博士は世界で初めて大気の大循環と海の大循環をつなぎ、地球の気候をコンピューター上に再現することに成功した。1960年代とのこと。この「大気海洋結合モデル」は今、なくてはならない研究となっている。こうした研究が元となって気候変動が解き明かされていることに一市民として大きな感動を覚えたのだった。

この数十年間、日本の温暖化対策はこの間の科学の進歩の速度に比べて、あまりにも遅れているように思う。川崎市から、麻生区から、市民から、何ができるのか、40周年にあたり考えてみたい。

(飯田和子記)

発行 : 麻生区クールアース推進委員会(委員長 児嶋脩)
編集担当 : 天野悦子、飯田和子、児嶋脩、小林知江、林恵美
問合せ先 : 麻生区役所地域振興課 川崎市麻生区万福寺 1-5-1
Tel 044-965-5370 Fax 044-965-5201
発行日 : 2022年3月20日

